



WEEKLY

なごや ちくさ

題字 黒野清宇

名古屋千種ロータリークラブ
承認 1982年 8月24日
例会日 火曜日 12:30
例会場 愛知厚生年金会館
事務局 TEL763-5110 FAX763-5121
会長 小坂井 盛朗
幹事 舎人 経昭
会報・雑誌委員長 伊藤 健文

No.36

手を貸そう

Lend a Hand

2003~2004年度 RI会長 ジョナサン・B・マジアベ

きょうの例会

第1039回 平成16年4月27日(火)

友愛の日

先週の記録

第1038回 平成16年4月20日(火)

晴

◆“奉仕の理想”

◆斉唱 “四つのテスト”

小杉君より会葬御礼挨拶

妻の葬儀の際にはお忙しい中、多数ご会葬賜わり、ありがとうございました。

生前中はロータリーの催しを楽しみに参加させて頂いておりました。これからは息子と参加することもありますので、今後とも宜しくお願い致します。

◆出席報告

会員	65(55)名	出席	37名
出席率	67.27%		
前々回	4月7日(修正出席率)		90.91%

◆ビジター紹介

元、名古屋第二分区代理(東RC) 古川善次郎君

三好副幹事報告

1. 本日例会終了後、理事役員会を予定しておりましたが、議題がありませんので開催致しません。

◆◆◆ 山本眞輔君 日本芸術院賞 受賞 ◆◆◆



日を追う毎に受賞の重みを感じていますが皆さんからお祝いして頂き感謝しています。

小坂井会長挨拶

文化部演劇を行う

文化部として色々な活動をしているうちに演劇をやるという事になり、衣装やカツラなどを将校の奥さんに頼んでかき集めた。

第一回はやっぱり長谷川伸原作「臉の母」という事になった。セリフやその他はラジオ中継御園座よりで十分に経験済、ところが舞台の動作、立ち廻りとなるとラジオのような声だけというわけにはいかないので役柄の人選で大モメだ。ポスターを作って作業長の許可を貰い正式に実行する事になった。

上演は次の日曜日だ。前にも増して前人気上々。何！〇〇が忠太郎をやる？おっ母は誰だ？とそれにぎやかな事、作業の辛さもどこかにフッ飛んでしまって話題フットウまるで文化委員は人気役者並で何かにつけて特別扱いをしてくれた。

いよいよ上演。少々のトチリが逆に大ウケ、まるでドサ廻りの田舎芝居だが皆が涙を流して喜んでくれた。それからは「一本刀土俵入り」やら「湯島の白梅」「瀧の白糸」等手当たりしだいに人気に任せてやっていたところ、ある日ソ連情報部将校に呼び出されて大目玉を食ってしまった。彼の言い分は芝居にイデオロギーがない。資本主義の墮落した娯楽主義の芝居は今後上演を禁ずるというものであった。

逆らう事なく「ダーダー」ごもつともです。今後はご期待に添う出し物を考えます、と言って引き下がり皆と一緒に困ったな、何をやろう、警察官に共産党の志士が逃げ廻りながら活動をしているという場面で何とかストーリーが出来ないか、誰か脚本を書けないかという事になり、A君が名乗り上げたので任せただけであった。

数日後、A君は「出来たぞ、これでどうだ」中味は恋人である兄の友人が共産党の活動員をしていて、ある日官憲に追われ恋人がそれを匿うというカラミのものであった。

よしそれでゆけという事で練習開始。衣服、小物の調達と大忙し、例のソ連情報部将校も招待し開演した。ソ連将校と言えどもシベリアのまるで流刑地のようなところ、何の娯楽もないのは我々とあまり変わりがない。

い。この日は奥さんや子供まで連れての観劇である。

これはソ連側には大ウケで「ハラショーハラショー」であった。しかし、これで革命が成功したところをやらねと言われたのには閉口してしまった。その後日曜日には何かやらなければならない、どんな寸劇でも上演しないではいられないようになってしまったのには文化委員一同大いに困ってしまい、少々負担オーバーを痛感するようになったのであった。

地区協議会報告

●小山次年度副会長

4月18日、2004～2005年度の為の地区協議会が春日井RCのホストで開催され、約1600名の参加者で当クラブからは鈴木会長エレクト・三好副幹事をはじめ17名が出席しました。

午前の本会議で大島ガバナーエレクトよりグレンE エステス・シニア次期RI会長の方針が次の通り紹介されました。

RIテーマ「CELEBRATE ROTARY」
「ロータリーを祝おう」

- ・あなたのクラブで、ロータリーを祝おう
 - ・あなたの職場で、ロータリーを祝おう
 - ・あなたの地域社会で、ロータリーを祝おう
 - ・私たちの世界で、ロータリーを祝おう
- その後、地区の方針として

1. 愛知万博のロータリー館建設と運営を成功させる。
 2. 職業奉仕をロータリー活動の原点として確認する。
 3. ロータリーが世界をつないでいる事を忘れない。
 4. ロータリー100年をお祝いだけに終わらせない。
- 以上4項目を掲げられました。

午後は松居クラブ奉仕委員長と大口ロータリー情報副委員長と共に第2分科会に出席しました。

クラブ奉仕、会員増強、広報、ロータリーの友、インターネットと多岐にわたる項目について各次期地区委員会から活動方針について説明が行なわれました。

会員増強については目標を純増1名程度とし退会防止に努め質的向上を図るべきだという意見が多くでました。

ガバナー月信が次年度よりインターネットで送られるようで当クラブでも10万円程の経費減となるはずで、今後益々IT化が進むと思われ、その体制を整備する必要が在りそうです。

最後に嬉しい報告です。

RI広報賞の説明の中で前年度の当クラブ受賞が紹介されました。松居20周年実行委員長・大口直前会長と顔を見合わせニコリしました。

●油田 弘佑君（初めて参加して）

3年未満の参加した第9分科会は、リーダーとアシスタントリーダーによる意見開陳により行われた。

会員増強・退会防止

種々の職業人が集まる例会に出席し「見聞を広めよう」ことにより、職場や社会における指導者としての知識・素養を高め、仲間意識も育ち無形の財産を取得できる。豊田地区では増強委員に任せることなく全会員が一丸となって新会員候補者の推薦など会員増強に努めたことが契機となり新クラブが結成された。

出席負担

会員は「例会に出席して学び、例会から出て奉仕する」のであり、例会やクラブ運営は、4大奉仕委員会のもとでの各種小委員会により行われるが、ともすると委員長任せ。委員長はパイプ役に過ぎず、所属会員に情報を伝達し、全会員参加型の運営を目指すべき。

奉仕活動

奉仕に対する社会の要請は物品の支援という目に見えるものから、心の支援という目に見えない地味なものに移っており、ロータリーの奉仕活動もこの要請に応えねばならない。また会員の職業上の経験知識を生かす方向での奉仕活動も視野に入れてよい。

協議が壇上の人意見の意見を拜聴するに終り、メーキャップとの関連で会員の例会出席義務や義務違背に対するサンクション（罰）に関して奥行きのある説明・議論がなかったのはいささか期待はずれ。ともあれいろいろと耳学問ができたのは最大の収穫でした。

●卓話

“今時の花屋さん” 会員 佐久間良治君

十年程前まで花屋は葬儀花・ブライダル装花・活け込み・稽古花そして店頭売りを全てこなして発展してきましたが、この十年でフローリストとしてそれぞれの専門店に分かれつつあります。

そこで今日は小売店の店頭売りの状況を私なりに話させて頂きます。

皆さんの中で家に花を飾ろうと買った事のある人は何人いますか？ヨーロッパでは男性が花を買うのは自然な事で家庭を大切にしている感じがしますが日本人はまだまだ心に余裕がないのでしょうか。

スーパーではカジュアルフラワーが主流で小売店を圧迫しておりますが花の心がない気がします。花の相場も安いだけではないと思います。

いま花は洋種が大部分を占めてお客のニーズに追われて大変な時代ですが、日本には春は桜、菜花、初夏はかきつ、菖蒲、笹百合、夏は向日葵、秋はもみじ、桔梗などと四季折々の花がありますので花を蕾から枯れる迄味わって頂く為にも季節の花をご家庭で飾って頂きたいと思えます。

●ニコボックスは次回掲載致します。

次回例会

平成16年5月11日(火)

卓話 “「職業奉仕委員会」を担当して”

会員 二村 聡君